

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都港区東新橋1-9-1

為替週間展望＝ドル円は方向性を探る動きか

〔11月10日からの1週間の展望〕

週間高低（カッコ内は日）						11月3日～11月7日	
	始値	高値	安値	終値	前週比		
ドル・円	154.00	154.48(4)	152.82(7)	153.41	-0.58		
ユーロ・ドル	1.1539	1.1552(6)	1.1469(5)	1.1534	-0.0003		
=====							
国内株・金利／米国株・金利							
	終値			前週末比		終値	
日経平均株価	50,276.37	-2134.97	日本10年債利回り	1.680	+0.011		
ダウ平均株価	46,912.30	-650.57	米10年債利回り	4.083	+0.006		
=====							
<来週の主要経済統計等>							
10日	日銀金融政策決定会合における主な意見（10月29日、30日分）						
	中川日銀審議委員講演						
	日本9月景気動向指数速報値						
11日	日本9月経常収支						
	英10月雇用統計						
	独11月ZEW景況感指数						
12日	独10月消費者物価指数確報値						
	独9月経常収支						
13日	豪10月雇用統計						
	英第3四半期GDP速報値						
	英9月鉱工業生産指数、英9月貿易収支						
	スイス10月生産者輸入価格						
	ユーロ圏9月鉱工業生産指数						
	米新規失業保険申請件数、米10月消費者物価指数						
14日	中国10月小売売上高、中国10月鉱工業生産指数						
	ユーロ圏第3四半期GDP改定値、ユーロ圏9月貿易収支						
	カナダ9月製造業出荷、カナダ9月卸売売上高						
	米10月小売売上高、米10月生産者物価指数						

【前回のレビュー】今後は民間部門の経済指標に左右されやすい展開が続きそうだ。ただ、FOMCと日銀会合というイベントを通過したことで、ドル高円安の動きも徐々に落ち着きを見せ、高値圏でのみ合いになるとした。

【ドル円はレンジ内でのみ合いが続く】

11月3日からのドル円は152円台から154円台半ばでの推移となった。米政府機関閉鎖が継続する中、経済指標の発表が限られており、手掛かり材料が少ない中で方向感の出にくい動きとなった。3日は10月の米ISM製造業景況指数が48.7となり、市場予想の49.5や前回の49.1を下回ったことでドル売りにつながった。ドル円は154円台前半から153円台後半まで下落した。

4日には片山財務相が「一方的で急激な動きがみられる」などと円安をけん制する発言を行ったことで、153円台前半まで下落した。5日は米ハイテク株安を受けて日経平均が急落した。一時2400円超の下げとなったことで、リスク回避の円高に振れて、ドル円は152.90円台までドル安円高が進行した。その後、米国株が落ち着きを見せると、ドル円も上昇に転じた。

5日は10月の米ADP雇用者数、米ISM非製造業景況指数がいずれも市場予想を

上回る堅調な結果となったことで、米10年債利回りが上昇するとともにドル買いの動きに傾いた。ドル円は154.30台まで上値を伸ばした。

6日は米国の民間企業の雇用指標を受けて円高が進んだ。米調査会社チャレンジャー・グレイ&クリスマスが発表した10月の人員削減数は15万3074件で、前年同月のほぼ3倍に達した。米雇用情勢への警戒感から米長期金利が低下するとともにドル売りとなり、ドル円は152円台後半まで下落した。

【ドル円は方向性を探る動きか】

米政府機関による経済指標の発表が見込みにくい中、11月10日の週は民間部門の指標もほとんどない。こうした中、市場は方向性の出にくい値動きになることが見込まれる。

10月の米連邦公開市場委員会（FOMC）では0.25%の利下げを決定したものの、米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長は「12月会合での利下げは既定路線ではない」「あらかじめ決まった道筋はない」と12月の会合での過度な利下げ期待をけん制した。

CME FEDウォッチによると12月のFOMCでの0.25%の利下げ確率は69%前後となっており、比較的利下げ期待が高いと言える。政府機関の一部閉鎖が続いた場合、金融政策の判断材料となる米経済指標の発表がほとんどなく、為替相場は株価や金利動向、FOMCメンバーなどによる発言などに左右されやすい展開となりそうだ。

なお、10月30日の日銀金融政策決定会合では政策金利を据え置いた。植田総裁は「利上げの是非やタイミング、現時点で予断持っていない」との見解を示し、追加利上げに慎重姿勢を示した。高市政権の発足直後で、新政権への配慮から利上げを見送り、追加利上げにも慎重姿勢を示したとみることできる。

155円を超えて円安進行については、一段の物価上昇への警戒感が台頭するとともに、介入警戒感も高まりそうだ。米経済指標の発表もあまりない中、ドル円は方向性を探る動きを続けるとみられる。明確なトレンドを描くような動きにはなりにくいとみられ、レンジ相場が続くこととなりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、151.00～156.00円。

日米の経済指標やイベントとしては、10日に日本9月景気動向指数速報値、11日に日本9月経常収支、13日に米新規失業保険申請件数、米10消費者物価指数、14日に米10月小売売上高、米10月生産者物価指数などがある。

【英中銀は政策金利を据え置き】

ユーロドルは軟調な流れを続けて、1.15ドルを割り込んだ。FRBによる利下げ観測がやや後退しており、ドルが堅調な動きを見せてきたことなどが背景にある。6日には米雇用情勢悪化への警戒感からドル売りに振れており、1.15台を回復している。

ユーロドルは5日移動平均線を超えてきたことで、目先は戻り歩調で推移する可能性はある。ただ、本格的な出直りとはならず、一時的に戻しても再び売りに押されやすい展開になるとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1300～1.1650ドル。

6日に英中銀（BOE）は政策金利を4.0%に据え置いた。注目された票割れは5対4の僅差となった。4名は0.25%の利下げを主張した。僅差で据え置きとなったことを受けて、ポンドドルは1.31手前から1.3060近辺まで下落したものの、売り一服後は下げ渋りを見せた。

ポンドドルは英国の財政懸念などから長らく下落基調が続いて1.30ドル手前まで下落を見せた。その後は、政策金利の発表前から上昇に転じている。ただ、上昇の動きは限定的なものにとどまり、戻り一服後は再び下げに転じるとみられる。ポンドドルの目先の予想レンジは、1.2900～1.3300ドル。

今後の日米以外の経済指標は、11日に英10月雇用統計、独11月ZEW景況感指数、12日に独10月消費者物価指数確報値、独9月経常収支、13日に豪10月雇用統計、英第3四半期GDP速報値、英9月鉱工業生産指数、英9月貿易収支、スイス10月生産者輸入価格、ユーロ圏9月鉱工業生産指数、14日に中国10月小売売上高、中国10月鉱工業生産指数、ユーロ圏第3四半期GDP改定値、ユーロ圏9月貿易収支などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。